

七点

- ② 口重き祖父の一言寒牡丹 平野 邦子
- ① 餅花や煤けし土間へ日の差しぬ 藤本 友子
- 寒月光湖へ向け置く椅子ひとつ 恩田 才美

六点

- ③ 点眼の瞳に冬日あふれくる 藤崎安紀子
- ② 凍蝶に生の序列のありにけり 増田 守
- ① 目覚めしも夢のあと追ふ霜夜かな 増田 守
- ① 加賀手毬紅くころがる冬座敷 恩田 才美

五点

- ① 和布刈る禰宜の手先の赤きかな 柏尾のり子
- 焼芋や母のことなど姉に聴く 服部 直子

四点

- 買初や達者を願ふスニーカー 藤本 友子

三点

- ① 後厄も遠き日となり初詣 柏尾のり子
- ① 友の心ある時遠し雪しぐれ 平野 邦子

二点

- ② 咳くやマスクのなかの顔認証 坂本のりとし
- ① くる年を迎える空の青さかな 稲葉 幸
- ① ずっとんと五体に浴びる大初日 恩田 才美
- ① 年迎ふ戦なき世を生きにけり 京林 眞三
- 根性の生甲斐たるや初詣 岩崎 眞三
- 飴舐めて一人遊びの絵双六 古野 明美
- 終ひ湯にとつぷりつかり年惜しむ 辻 幸子
- 鱒酒酌む和装の漢や背中の黙 藤崎安紀子
- 潮騒にいのち繋ぎし水仙花 増田 守
- 冬ばらを生けて一日をのんびりと 辻 幸子
- 野球子のダッシュ始まる四日かな 古野 明美
- 鴉と鳶闘い止まず点となり 岩野ヤエ子
- 冬ざれや朝がゆ喉をとおり行く 辻 幸子

(以下 省略)